

---

# 転生？魔法？もういやだ、家に帰りたい...

赤色の蜜柑

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

転生？魔法？もういやだ、家に帰りたい…

### 【Nコード】

N7045Y

### 【作者名】

赤色の蜜柑

### 【あらすじ】

神に転生させられた主人公 望月天翔は、チートな力を得る。だが天翔は、平和を目指して突き進む！それなのに、進んでいくのは平和の正反対。あるえー？主人公は、自分の不幸スキルで不幸な方へといってしまう！！まあ、全ては赤色の蜜柑のおもくがままに！天翔「お前のせいか！」赤色の蜜柑「ぐぎゃ！」  
始めての作品ですので多めに見てください。  
かなり不定期更新になると思いますので、ご了承ください。

ぶるるーぐー！

「君には転生をしてもらうことになった。」

「へ？」

みなさんこんにちは。今俺はとっても不思議な状況に直面している。  
あれー？なんでこんなことに？

「回想してみればいいじゃろうに。」

そうか！うん。そうしよう。

では回想ドン！

く回想く

「やったー！」

俺の名前は望月もちづき天翔てんしょう、中学二年生だ。  
いつもは運悪く、買いそびれてしまうジャンプを今日は買うことが  
できたので、やけにテンションが高い。

「なんかこうゆづとぎっていやなことがあるしそんな予感がするんだ  
よなー。」

そういつて自動ドアをあけるとそこにあるのは軽トラック。

「へ？」

いくら軽とついても、トラックはトラック。  
もちろんトラックにあたれば人間は…

「ぐあっ！」

吹っ飛ばされるわけで…

「かはっ！」

地面に叩きつけられる。

その衝撃で体がひきちぎられそうなくらいの痛みが全身に回る。  
現代の日本人がそんな痛みには耐性があるわけがなく、死んでしまう。

「ああ、こんなことになるなら親孝行しとけば良かったな。なんか眠くなってきた。」

そしてすごい睡魔が襲ってきたので、そのまま眠った。

「はっ！」

おきたら、そこにはすごい威厳のありそうな爺さんが。

「君には転生してもらったことになった。」

「へ？」

～回想終了～

「思い出した。全部思い出した。」

「そうかの。では」

ガバツ

「すみませんっしたー!!」

「いや、なんで!？」

「あー、それはの。」

説明中

「なるほど。とりあえず殴らせろ。」

「フオ!?なんd「バキッ」グギヤ!」

どうやらこのジジイがいうには、  
モンハンやろっつ。

あ、コーヒーこぼした。

やばい、書類の上に。(俺のページ)

おこられる。ならば転生させよう。

今の状態  
らしい。

「あんた何者？」

「神じゃ。」

「ピポパ、もしもし警察d「せえーい！」ばきっ！ああ…携帯が…」

「本当に神じゃ！というか、なぜここに携帯が！？」

「うーん…ご都合主義？」

「はあー。まあいいわい。」

「そんで？何？その転生とやらをするのか？」

「扱いが酷い…」「ギロツ」「ビクッ！あ、ああそうじゃ。しかし諦めがはやいのう。」

「まあな、止まっても何もかわんないしな。」

「そうか。ありがたいのう。」

「で、転生ってなに？」

「そこからのう…まあいいじやろう。転生というのは、死んだ魂を違う世界に肉体とともにおくることじゃ。」

「ふーん、なるほど…ってえ！？」

「おれこのまま天国にいきま「問答無用！」いってうわ！？」

あれ？ナンデシタニアナガ？

ひゅーん

「特典も、どんな世界かも、行けば分かるぞい。では、逝ってらっ  
しやい！」

「字がちげえー！ー！！てか覚えてろよー！ー！！！」

こうしておれは捨てぜりふを言いながら、異世界への第一歩を踏み出したのだった。

ぶろろーぐ!! (後書き)

初めての投稿です。誤字や、間違い、改正点があれば、ご指摘ください。

天翔「読者の皆様、ダメ出しよろしくお願いします。」

じみに酷くね？

天翔「ダメなんだから仕方ないだろ？」

グスン…

11月21日訂正しました。

そーらっを自由に！とっびたっいなー！！

「うがああああー！！」

こんにちは！俺こと望月天翔です！

現在絶賛落下中です！（現実逃避中

このまま落ちようかとも思っています！

「さーてと、本気でどうすっk「ズキツ」いっ「ズキツズキツ」あ  
がつ！「ズキズキグキツ」ガア！！！」

イタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイ  
イタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイ  
イタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイ  
イタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイ  
イタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイ  
イタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイ  
イタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイ  
イタイイタイイタイイタイ  
イタイイタイイタイ

あ…くあ…い…いたい…う…う…う…う…う…

「ふ、ふう…な、なんとか痛みはなくなったな…！！？なんだ  
！？これ？おれが知らない知識がある！？」

つてもう地面が近くに！？…なんだ？まさかできるのか！？

「ええい！ダメもとでやってやれ！“我に翼を！ウイング！”」

フアサツ

「翼が生えたー！？…やべっ地面がちかくに…！？」

と、とりあえず動かして飛ばう！

バサツバサツ

「飛べたー！！」

今、人間の夢を達成したぞー！！わーい！

一時間経過…

「っと、いい加減降りよう。」

トンッ

「よしっ何とかできたかー。」

それにしてもこの翼どうにかならないかなあ…

ヒュン！

「あれ？翼が消えた…？」

もしかしたらこれは魔法！？いやった！できるんだ！！

と、おもっていた頃もありました。

「「わがわが」…」

まじでどうしよう、まわりは木に木に木に…

「森じゃん…」

真面目にどうも…

そーらっを自由に！とっびたっいなー！！（後書き）

感想や、誤字、脱字、改正部分の指摘をしてくださると、嬉しいです！

天翔「やはり駄文。しかも短い。」

それをいうな（泣）

爺さん…こりゃやりすぎだろ…

こんにちは！望月天翔です！  
ただいまの状況を説明します！

「ここはどコー…！どうすりゃいいー…！」

この通りです。

「ハァー。どうしよう。しかもこんな年になって迷子かよー。ってあれ？やけに地面がちかいな？」

そういえば地面が近い…まさか！？  
そんな時に上から紙が落ちてきた。

「なんだこれ？」

してみると…

「これで安心！あなたの体ガイドブック！by神”なにこれ？えーと、何々？”おぬしは無事に着けたかの？”自分で落とすといてなにが無事だ！しかもかかってに転生なんてさせておいて…”いまからおぬしのはいすぺっくな体について説明するぞ！”うぜえ。すぐくうぜえ。とくにハイスペックをはいすぺっくにしてるところがうぜえ。」

破り捨てようかと思ったがなんとか思い止まった。

「続き読むか…”一つ目はAAの魔力、気じゃ！これでまず魔力と

気で困ることはなかるう。” すぎえよ。どんだけだよ。“ 2つ目は、某生徒会長並みの身体能力じゃ！” もう人じゃねえよ。“ 3つ目は、いつでもどんなのでも造れるオリジナル魔法製作じゃな。” 俺が俺でなくなってきたよ…“ 4つ目は驚異の回復力じゃ！” もう充分だって…” 後は万能な家事能力と、願いを三回叶えてやるくらいじゃな。ちなみに顔はわしの好みにしたからの！ではな！” あはは…モウドウニデモナレー “ちなみにこの紙は5秒後に爆発するよ” はあ！？やべっ！どうしよう！！なg「ドカーン！」 やっ…ぱ…り…こっつい…う…オチ…か…バタツ。」

数時間後…

「ふっかーっ！すげーこの体！傷がのこってねえ！？」

そう。そのとうりだ。あんな至近距離で爆発したにもかかわらず、骨折どころか、傷一つも残っていないのだ。

「たぶん驚異の回復力だな。うん、やりすぎだろ爺さん。まあ、取りあえず、能力は分かった。あとは…」

これからどうするかだ。

爺さん…じりゃやりすぎだろ…（後書き）

感想、誤字、脱字、改善点のご指摘があれば言ってください。喜びます。

天翔「糞短けえ。みじかすぎる。」

うん。そつだよな。さすがに今回はね〜。

天翔「今回は素直だな。」

まあ、こんかいはねえ〜。

天翔「ならもつと書け、内容をもつと濃くしろ。」

そつだよなあ。文章力無くてすみません！

「うんはやうだろー。うん？……なるみい？」

うーん。どうしよう。ここにいてもなー。ブツブツ……はっ！  
こ、こんにちは。天翔です。今、これからどうするかを考えています。

「はあ〜こんな森に人がいるわけがないしな〜。」

そんなことを考えていると……

ガサツ

「もしや人！？よっしゃー！これで脱出だ「グルルル」……え？」

こんな声のいないし……とかバカなこと考えながら振り返ると……

「グアアアア……！」

大きな大きな熊さんが

「いやアアアア……！」

ある日、森の中、くまさんに、であつた！

「にげるアアアア……！」 「ガオー……！」

やばいやばいやばいやばいやばい！逃げるアアアア……！！

数分後……

「ハア、ハア、逃げ、ハア、きれた、ハア、ハア」

そう、俺は逃げきつたのだ！

「ふう〜いくか、つと看板？何々？……なるみい？」

見上げると街が。

「よっしゃ〜！！街についた〜！！」

そう。このときおれはまだきずいていなかったのだ。  
これが、原作介入の第一歩ということ……

「じいはどこだろー。うん？……なるみい？（後書き）」

感想、誤字・脱字、訂正点がありましたら、お教え下さい。

「おい！なんだよ今回！熊がきたんだぞ！」

それはそれは、ご愁傷様……ぷっ

「ざけんな！！“カオスフレイカー 我は混沌を  
放つ者！混沌の濁流！！”」

ちよっ！？それはまだ出て来てないh「けしとべーー！」「うああ  
あああああー！……！！

「フツ……悪は滅びる……」

## 主人公設定

望月天翔

神様に無理やり転生させられたこの小説の主人公。

平和、睡眠が一番！というような性格で、それを邪魔した物には一切の遠慮がない。

また、めんどくさがりな性格でもあるので、後衛につくことが多いが、  
たまに前衛でフルボッコにすることもしばしば。

かなり友達思いで、身内や、親友には甘い。

能力は、AAの魔力、気と、某生徒会長並みの身体能力、魔法製作、  
驚異の回復力、願いをかなえる力。

容姿は、右目が赤、左目が橙。

格好いい、草食系の男子。

身長は小さい。

体重は軽い。

少々厨二病気味であり、痛い発言もたまにする。

## 主人公設定（後書き）

天翔「少ねえよ！！ああ！？」

すみません、すみません…その内追加するんで…

天翔「チツ、まあいい。追加…シロヨ？」

は、はい！！わかりました！！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7045y/>

---

転生？魔法？もういやだ、家に帰りたい...

2011年11月24日23時58分発行